

「教職基礎論」の総括

学校教育（教育学）・山本久雄

1 授業の概要

この授業は免許法規上の「教職の意義等に関する科目」であり、「教職の意義及び教員の役割」、「教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。）」、「進路選択に資する各種の機会の提供等」を含むべきものとされている。授業の目的は「教職への真の一体感・使命感・意欲を形成する前提として真摯な自己吟味をするため、教職の意義と教員の役割、教員の身分・資格、職務内容、学校の現状と求められる教師像を理解し、教師としての自己成長の方途について考えることができる。」とした（シラバス）。受講学生はいわゆるゼロ免課程の1回生が中心の108名である。授業の途中に現職女性教員（本学部卒業生）、PTA関係者の講話を各1回、中学校長経験者の講話を2回を取り入れた。

2 検証

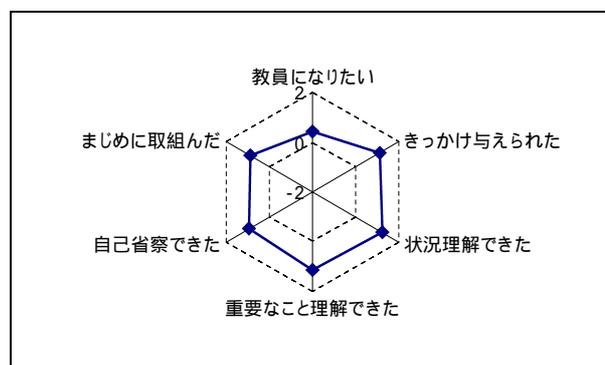
毎回の授業終了時に小紙片に総括を記入させることにより検証を試みた。こちらには細かな個別対応が必要であったが、人数の関係もあり、十分であったとは言い難い。

授業最終回にアンケートを実施した。質問したのは、

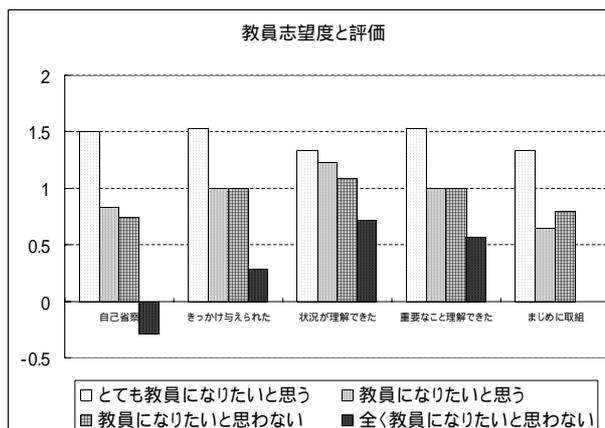
- ・教員志望の有無、
- ・学校、教育、教員などについて知り、考えるきっかけが与えられた、
- ・教員の置かれている状況が理解できた、
- ・教員として重要なことが分かった、
- ・自分が本当に教員になる意志があるかどうかなどについて考えるきっかけが与えられた
- ・授業にまじめに取り組んだ

などであり、回答を4段階で求めた。その集計結果は以下の通りである。まず、教職志望は全般に明確と言えるが、このデータは授業終了時に集めたものであり、次年度からはその変化の状況を把握してみたい。

その他の項目は、概ね所期の目的を達していたと言える。



なお、教員志望度別にその他の項目の評価についても集計してみた。



当然のことであるが、教員志望度と他の評価は明確に相関している。初年次段階でのキャリア教育の重要性が改めて確認できた。

3 課題と工夫

本授業についての総括は初めてである。これまで目的を意識しつつも漠然と内容を構成してきたが、今後はそれぞれの授業内容、授業方法ごとにこうした検証を積み重ね、より実証的に効果的な授業の在り方を探ってみたい。そこにはまた、カリキュラムの体系化、構造化の視点も必要になってくるであろう。